

行 政 報 告

(令和 4 年第 3 回定例会)

(報告事項)

- 1 農作物の生育状況について

令和 4 年 9 月 1 3 日

行政報告（令和４年第３回定例会）

令和４年第３回厚真町議会定例会にあたり、農作物の生育状況についてご報告申し上げます。

（農作物の生育状況について）

農作物の生育状況についてであります。冬季の積雪量は平年に比べ多く、融雪期は平年と比較し９日遅くなりました。

融雪後は気温も高めで、降水量も少なく推移し、春の耕起作業や、は種作業は概ね順調に終了しました。

胆振農業改良普及センター東胆振支所が調査した農作物の生育状況によりますと、水稻は、は種から移植期まで日照時間は長く、気温は高く推移し、苗の生育は平年並でした。移植作業は平年並に始まり、一部で少雨の影響により代かき作業、移植作業に遅れが出たものの、概ね順調に作業は進み、東胆振全体では５月３０日に終了しています。６月上旬～６月下旬にかけて低温寡照^{かしょう}で経過したため、活着や分けつが遅れ、生育は遅れました。その後、７月は高温傾向で推移し、冷害危険期の障害等は見られず、出穂期^{しゅつすい}は８月１日と平年より１日早く経過しています。生育の遅れは回復したものの、分けつ^{はじめ}始の遅れが影響し、茎数^{けいすう}がやや少なくなっています。成熟期についても平年並と推定されます。

普及センターによる稔実^{ねんじつ}調査では、中苗ななつぼしの不稔率は４．２％程度で平年並みからやや低くなっています（平年値７．０％）。

農林水産省が発表した８月１５日現在の本年産水稻の作柄概要では、北海道は「やや良」となっています。全国では「やや良」が１１都府県、「平年並」が２４道府県、「やや不良」が１１県となっています。なお、東日本を中心とした早場地帯の作柄は、概ね「平年並」から「やや良」と発表されています。

秋まき小麦は、昨秋が温暖に経過し生育量が確保されました。また、積雪量が多かったため、土壌凍結深は浅く、融雪水の滞水による凍害はみられず、越冬状況は良好でありました。起生期^{きせいき}は平年に比べ６日遅く迎えました。４月は

少雨で経過し、追肥の効果が現れにくいまま茎数^{けいすう}の淘汰が進みました。出穂期^{しゅつすい}は6月1日となりました。6月上旬から収穫前の7月4半旬まで寡照^{かしょう}で、更に7月上旬から3半旬にかけて少雨の中、成熟期を7月16日に迎えました。収穫は平年並みに終了しました。

登熟^{とうじゅく}日数は平年と同等の45日で、麦は細い傾向で、粗麦重量^{そばく}は平年を下回る見込みとなっています。

8月16日現在の調製状況（厚真地区分）では、秋小麦の受入重量は1,385トンで、等級麦^{とうきゅうばく}は1,187トン（約85.7%）を見込んでいます。また、春小麦の受入重量は849トンで、等級麦^{とうきゅうばく}は594トン（約70.0%）を見込んでいます。

馬鈴薯は、植付^{うえつけ}作業が平年並に進み、萌芽は平年よりやや早い5月14日となりました。病虫害の発生は少なく、開花期、茎葉黄変期^{けいようおうへんき}ともに平年並に進みました。収穫作業は8月中旬から始まりましたが、断続的な降雨により収穫作業は中断しています。7月下旬の坪堀^{つぼほり}調査では、1株あたりのいも数は多く、でん粉含量も高い結果となっています。

大豆は、は種が平年並に終了したものの、出芽期ころの強雨により除草剤の影響を受けたほ場や、出芽後の低温少雨により、草丈がやや短く推移しました。その後、気温は高めに推移し、開花期は平年並の7月15日に迎えています。現在、草丈はやや短く、葉数^{ようすう}は平年並、莢数^{さやかず}は平年より多くなっています。

小豆は、は種が平年並に終了したものの、出芽期が6月上旬の低温により平年より4日遅れの6月8日となりました。その後、気温が高めに経過し、生育は回復し、開花期は平年より2日早い7月23日に迎えております。草丈は長く、葉数は平年並、莢数は多くなっています。

てん菜は、移植期は平年並で、活着は良好でした。直播^{ちよくは}てん菜についても、大きな障害は無く出芽を迎えることができ、病虫害の発生も少なく、移植・直播^{ちよくは}ともに、根周^{こんしゅう}の肥大も順調で生育は平年より3日進んでいます。

牧草は、萌芽期は平年より1日早い4月7日となり、その後も順調に生育が

進み一番草の出穂期は平年より 1 日早い 6 月 9 日となりました。収穫は平年より 3 日早く始まり、収穫期は平年と比べ 1 日早い 6 月 22 日に、収穫終は平年と比べ 1 日遅い 7 月 11 日となっています。収量は降水量の不足からやや少なくなっています。

二番草の草丈は平年並となっており、生育は 3 日進んでいます。

サイレージ用とうもろこしは、は種期が平年より 2 日遅い 5 月 16 日で、は種後の生育は順調で、稈長^{かんちょう}も長く生育は 6 日程度進んでおり、熟期^{じゅくき}も平年より早まっています。

そ菜園芸では、ほうれんそうは、春の天候に恵まれ出荷量は安定し、価格は平年並みに推移しました。7 月中旬頃より高温、降雨、日照不足等の影響により、生育障害が発生し、収量は減収しておりますが、価格については現在やや高値で推移しています。

カボチャは、早出しの作型については、定植後低温となり生育は緩慢となりましたが、7 月以降気温も上がり平年並みとなりました。着果も良好で若干小玉傾向ではありますが、収量は平年並みの見込みであります。慣行作型^{さくがた}については、定植後の安定した天候で生育・着果・玉回りともに良好であります。また、府県の猛暑の影響により荷動きが悪く、物量は少ない状況ですが価格については平年並みとなっています。

ブロッコリーは、6 月下旬から出荷が始まり、7 月までは安定した出荷が続いていましたが、8 月からの長雨等の影響により、軟腐病等^{なんぷびょう}が発生し出荷量・製品率が低下しております。7 月の価格は道内の各産地が出荷のピークとなりやや安値で推移し、現在は平年並みの価格で推移しております。

花きは、春の天候も良く生育は概ね順調に進み、病虫害の発生も少なく品質も概ね良好で推移しましたが、前進出荷となり草丈は短く製品率は低下しています。価格は為替の影響もあり輸入品の入荷が少ないことや、需要が回復してきたこともあり、7 月、お盆の需要期においてもやや高値で推移し、お盆以降も継続しております。

ハスカップは、大雪による枝折れや5月下旬からの低温、裏年^{うらねん}等の条件が重なり、花芽^{はなめ}も少なく不作傾向となり、更には収穫直前での暴風雨により果実が落果するなどの被害もあり近年にない減収となりました。

近年、気象変動が大きい年が続いています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と長期化により、昨年に引き続き農作物価格の下落や輸送経費負担の増加など、農業経営にも影響が出ています。これらに的確に対応できるよう関係機関と連携して対応するとともに、収穫作業の最盛期を迎えるにあたって、農作業事故に十分注意されるよう生産者への呼びかけを強化してまいります。

以上ご報告申し上げます。